

原監督 キャンプ2部制改革案



少人数で効率アップ
練習量が増加

巨人・原監督が来季のキャンプ構想を披露した。この日沖縄に移動してS班と合流。14日までの日程は4班に分散した形で実施し、沖縄入りした原監督はキャンプの2部制を提案

少人数が短い時間で効率的な練習を行うことができ「(来年は)1、2部制にするとかね。(先に練習する組は)午前9時から。(後組は)正午からという感じで効率よく」と改革案を披露した。
例年1軍野手は約20人だが、今年は半数で

集中力や自覚が芽生えた。コロナ下で密を避ける目的もあったが、個人練習の量が増加するなどメリットは大きかった。そこで原監督が掲げたのが「1、2部制」での練習。同じ敷地内であっても時間を分けて少人数で練習を行うことで効率化を図る。今季の沖縄2次キャンプでも一試してみるか」と話した。
またホーム開催の練習試合では、ピッチャーチームが打撃練習直後にシートノックを行うことを提案。通常はホームチームがシートノックを先に行うが、試合開始直前に変更することで、お互いに体が冷えた後に再び温め直す無駄を省いて効率化を図る。(神田 佑)

巨人 制限下の知恵が生んだ「新鮮な面白さ」



(右から)走塁練習でタッチされる谷(左)居残りでノックを受ける坂本

キャンプリポート 最前線

少ない人数で利点も

新編 新型コロナ下のキャンプからはファンの姿が消え、歓声も聞こえてこない。例年とは様変わりした風景に寂しさも漂うが、決して悪いことばかりではない。感染予防の観点から那覇市で分離キャンプを行っている巨人のS班は状況に応じた工夫を凝らしていた。

7日。石井野手総合コーチが現地スタップとして働く学生たちに外野を

守らせ、ノックを打っていた。たまたまグラウンドに出てきた元木ヘッドコーチは「何これ? どうした? 今からトライアウトでもやるつもり?」と冗談めかしていた。

その2日後、実戦的な走塁練習が行われた。石井コーチが外野に打球を打ち、選手たちは走者、二塁から本塁を狙った。練習を積み、内外野を守った学生たちも真剣だ。

炭谷を本塁で懐死させた際には「おおっ」と力強い声も飛んだ。

分散したキャンプのため選手の人数は限られるが、補うために入念な準備をしてスタップも練習に参加。選手からは「新

鮮で面白かった。チームの野手陣とは違うから肩の力も分らないので、こちらも真剣になる」と好意的な感想が漏れた。他にも打撃練習を終えた坂本が一人、サブグラウンドで黙々とノックを受け続ける日も目立った。人数が少ないからこそその利点。坂本は「自分の練習に集中して過ぎせている。本当にいい調整ができています」と思っています」と恩恵にあずかっている。

置かれた状況下で知恵を出し合いながら、シーズンに向かっていく。宮崎から沖縄に入った原監督率いる本隊はきょう16日からS班に合流。コロナに負けない思考を巡らしたキャンプが続く。(遊軍・川手 達矢)